
透析通院拒否した患者への特養における対応

社会福祉法人照善会 こくら庵

○峰 尚幸、桑内清美、小松利恵子、舩越 哲

【はじめに】

当施設は透析専門病院に附設した特養であり、入居者全員が透析患者である。今回、透析通院治療に対し拒否的となった3名の高齢患者において、その背景を分析した。

【症例1】

87歳女性、要介護4、透析歴2年、認知症なし。本人の意識がない状態で透析導入となったが、その後体調不良が続き透析通院拒否となった。

【症例2】

77歳女性、要介護4、透析歴1年、認知症あり。透析導入の理解はできていない。透析開始時間の変更が透析拒否のきっかけとなった。

【症例3】

84歳女性、要介護4、透析歴13年、透析導入時は認知症なし。家族による虐待の為、施設へ措置入居となった。生活環境の変化にて認知症が進行し、激しい通院拒否となった。

【考察】

一旦透析通院拒否となってしまった場合、これを改善することは困難である。これらの原因は、透析導入時の理解度だけでは説明できず、認知症の進行と環境の変化が相互作用している可能性がある。施設で可能な対応として、生活環境のみならず、治療環境の変化を最小限にするため、医療チームとの連携が重要と考える。